

維持管理に関する計画書 維持管理基準

項目	対応策
ピット・クレーン方式よってごみを投入する場合には常時、廃棄物を均一に混合すること	該当しない。
燃焼室への廃棄物の投入は、外気と遮断した状態で定量ずつ連続的に行うこと	バッチ炉のため該当しない 重機による一括投入方式。
焼却灰の熱しゃく減量が10%以下になるように焼却すること	助燃装置により800 以上で完全燃焼させ10%以下になるようにする。
運転開始時は、助燃装置を作動させる等により、炉温を速やかに上昇させること。	助燃バーナー点火後、約30分以内で800 に到達。
運転停止時は、助燃装置を作動させる等により、燃焼室の炉温を高温に保ち燃焼し尽くすこと	助燃装置の作動により燃焼し尽くす。
燃焼ガスの温度を連続的に測定・記録すること	温度記録計により測定・記録する。
集じん器に流入する燃焼ガスの温度を200 以下に冷却すること	冷却塔により100 以下に冷却。
集じん器に流入する燃焼ガスの温度を連続的に測定・記録すること	温度記録計により測定・記録する。
排ガス処理施設・冷却施設に堆積したばいじんを除去すること	定期的に除去する。
排ガス中のCO濃度が100ppm 以下になるように燃焼すること	供空量に気をつけ、完全燃焼に努める。
排ガス中のCO濃度を連続的に測定・記録すること	CO濃度計により測定記録している。
排ガス中のダイオキシン類濃度が一定濃度以下となるように焼却すること	800度以上で燃焼し尽くすことにより、ダイオキシン濃度を抑制する。
排ガス中のダイオキシン類濃度を年1回以上、ばい煙量又はばい煙濃度(硫黄酸化物、ばいじん、塩化水素、及び窒素酸化物に係るものに限る)を6月に1回以上測定・記録すること	ダイオキシン類については年1回以上、ばい煙量又はばい煙濃度については6月に1回以上 測定・記録し記録は3年間保存する。
排ガスによる生活環境保全上の支障が生じないようにすること	基準値以下の測定結果を確認することで支障がないようにする。
煙突から排出される排ガスを水により洗浄、冷却する場合は、水の飛散、流出による生活環境保全上の支障が生じないようにすること	施設内で完全循環するので、影響はない。
ばいじんと焼却灰を分離して排出し、貯留すること	慣性分離、重力沈降方式により排出、貯留する。
火災防止に必要な措置を講ずるとともに、消火設備を備えること	消火器設置